

21—23期合同同期会

23期 石地 隆司

最後の峠を過ぎると、右前方より後立のモルゲンローテに輝く山々が目に飛び込んできた。ようやく明けてきた空だがはっきり青空とわかる。ほどなく国道を右に入り、急坂を登っていくと、アルプス館の駐車場に着く。長浜を出て5時間余り。「あーやっと着いた」と一息。無事に着いたことより、＜天気・道路状況とも問題なく、これでみんな無事に集まってこられる＞という安堵の方が大きかった。

今年の2月11・12日の両日、我が23期は懐かしの白馬・乗鞍スキー場にて同期会を行った。我々の現役の頃利用していた白樺館は経営者も変わり、例の＜離れ＞も今はパン屋さんになっている。で、現在現役が利用しているアルプス館にお願いしてみたが

「シーズン中の連休は貸切でないと困る」ということなので、23期だけでは足りず、21・22期の長野近辺の先輩達にも参加を呼び掛けた。結果的に21—23期の合同同期会になったわけで、いつもの同期会とは趣向が違って、先輩を囲んでいろいろ懐かしい話ができて、これもまたいいものであった。

23期は金沢在住者が数名いるせいか、横のつながりが強いようで、同期会も何度かやっている。最初の頃は結婚祝い会と称して、度々金沢に召集がかかったし、その後も白山登山や、2年の時亡くなった鈴木信司の10回忌静岡ツアーなどがあった。そして前回は、富山在住者が主体となって立山山麓ツアーが行なわれ、

「次回は関西が何かやれ！」

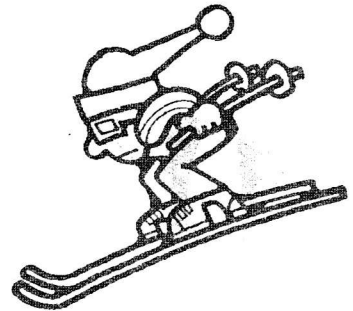
ということになって、今回のスキーツアーになった次第である。ただ、今回はスキーということで、まだ我々の世代の子供達には少し早かったようで、嫁さん・子供を連れてきてるのが少なく、よけい人数不足になってしまった。もう何年か後にやると家族ぐるみで参加できるスキーツアーになるかもしれない。

1日目・2日目ともスキーは各自フリーにして団体行動をとらず、夕方宿集合、翌朝解散としたので、メインは必然的に宿での宴会になった。とはいえ、普通ならスキーできないのにここまで来る者はいないのだが、当日披露宴が入ってしまった宮西と所用で来れないという見成は、夜車飛ばして2次会？には参加してきたし、骨折で運動はドクターストップ中の鳥越も

「宴会は出る」

と言って参加してくれた。このあたりが23期連中のすごいところだと思う。次回は再び金沢部隊がやるらしいので、何を企画してくれるのか今から楽しみである。

ちなみに、白馬・乗鞍、コルチナのゲレンデ情報を少々。我々の現役の頃の白馬・乗鞍はワッゲルボンチョやWヤッケがよく似合う超マイナーなゲレンデだったが、今はかなり様相が違っている。シングルばかりだったリフトは、高速ベアトリプルやクワッドに変わり、長さも長くなっている。ゲレンデそのものも、横に上に大きく広がっている。ボロボロの木造レストハウスも2—3年前に新築になったし、かなりメジャーになりつつある。昔に比べれば、人は増えたがそれでも堀池や八方尾根程多くないので、いまだに穴場的存在なのではないだろうか。北廻りで行くと最初のゲレンデだし、若栗の南隣には日帰り無料駐車場もあるし、長野五輪に向けて国道の整備もかなり進んだ（大仏峠越えもトンネルになりました）ので、近辺の方、懐かしのゲレンデで一度滑ってみてはいかがでしょう。



24期同期会報告および次回開催の案内

私達24期は、35周年記念総会・懇親会で久しぶりに会ったのを契機として、その翌年（94年）から同期会を開いています。

94年はワンドルOBらしく中央アルプスに行くことを計画し、多くの人の参加をよびかけました。ところがよびかけが遅くて日程の都合がつかなかったり、「年をとって山に登る自信がない」などといったきわめてジジくさい理由などから参加者わずか5人という寂しいものとなっていました（もっとも参加者からは、「久しぶりに山に登って面白かった」とか「不安だったが、まだ山に登れる体力があることがわかって自信になった」という一定の評価は得られていました）。

そこで95年は前年の反省の上にたち、鹿島槍の麓にある青木湖キャンプ場で1泊2日のキャンプをしました。8月19・20日のことです（参加者は最後に記載してあります）。

集合は19日13時現地としたので、おおむね近いものから順に到着し、めいめいテントを設営してゆきました。

特徴的なことは、みなが持ってきたテントのほとんどがダンロップ（1つだけ別のテントだったがそれもエスパー）ということでした。私達が現役頃はまだあの「重くて立てるのがめんどろな三角テント」が主流で、ほんの少しだけあったエスパーやダンロップは羨望に近い気持ちをもっていましたから、それがこんなところに反映されたのかもしれませんが。

テントを張ってから何をしていたかという、これが別段何をするというわけではなく、酒を飲んで四方山話をしていました。黒岩君がカヌーをもってきたのですが、これも年をとってみんな保守的になったのか、「これはひっくり返るかも知れないなあ」「水、冷たいなあ」とぶつぶつ言っていて誰も乗ろうとはしない。せっかく持ってきてくれたのに申し訳ない次第だが、しかし後にカヌーはたいへん役に立つことにな

るのである。

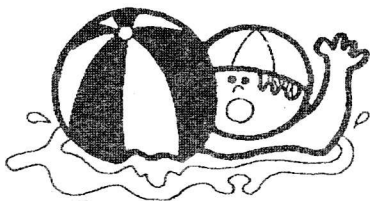
さて卒業後10年余りにもなると、体型および頭髪のほうにも各人かなりの差がでてきます。事細かに書きますとなにぶん支障がでますので、あいまいに書いておきますと……。

参加者大人9人のうち、女性二名と男二名は体重・体型・頭髪の点で学生時代とほとんど変わりありません（女性については、さすがに体重を聞くことはいたしませんでしたが、体型が変わっていないのでそういうことにしておきます）。後は「若干体重が増えたかなあ」というのが二名。「かなり増えたなあ」というのが一名。髪の毛の減少に反比例するかのように「メチャメチャ体重増えたなあ、これでむかし山に登っていたなんて信じられない」というのが二名。ちなみに最後の三人の体重を合計すると270kgで、これにはみんな笑わせてもらいました。

つぎに子供たちについて。最初、子供たちが仲よくしてくれるか少し心配でした。親同士は旧知のあいだがらとはいえ、子供たちはみな初対面。そんなわけで初めは子供たちも少しよそよそしうでした。が、親同士と一緒に飲んだくれているのを見て安心したのか、もともと子供の適応能力が高いのか、あっという間に仲よくなってしまう、大人を放ったらかしにして子供は子供同士で遊んでいました。仲がいいのは結構なのですが、なれてくると子供達もだんだん悪いことをしはじめるようになり、あげくには食器を湖に流してしまったのです。

それで食器を拾いにいかないといけないうけなのですが、これが岸からはとても届かないところまで流されていってしまいました。そんなわけで黒岩君がヘッドライトを頭につけ、食器を取るためにカヌーで真っ暗な青木湖にはいってってくれました。さすがにカヌーはえらいもので、あっという間に食器のところまでたどり着き、無事にこれらのものは回収されました。食器が無事に回収されたときは、みんな——さっきまでカヌーをないがしろにしてきたことも忘れて——「黒岩あ、カヌーっていいもんだなあ」と言って黒岩君をたたえたのでありました。

子供達の話がさらに続くのですが（なにしろ大人達はただひたすら酒を飲んでえんえんと雑談をしているだけですから）、子供のなかにはいつのまにかアベックになってしまい者もいて、この子たちは大人および他の子供をないがしろ



にして二人の世界をつくりあげ、暗闇のなかに消えていってしまうのでした（単に〇しか女子大生かわからないけれど、そこのグループのところにいったかわいがってもらっていたというだけのことですが）。この二人はその後「一緒に寝る」だの、温泉では（後述）「一緒にお風呂に入る」だのと言いだし（実際に温泉では二人とも男風呂でなかよく温泉に入っていました）、大人達もすっかりあきれはて、好きなようにさせておきました。

この日は、その後花火などして遊び、いつのまにか寝てしまいました。

次の日、早い者は5時くらいから起きはじめ、湖をながめながら色々雑談をし、黒岩君はカメラに乗って青木湖にかけ（あれくらい自由にカメラがあやつれたら面白いだろうなと思います）、他の者も次第に起きはじめました。

みんなで朝御飯をつくり、その後テント場をあとにしました（写真は出る直前のものです）。青木湖を出てからは、大町温泉群に風呂に入り、その後昼食を取り、来年の再会を約束して別れたのでした。

さて前述の子供カップルですが、大人達の間では「これだけ仲がいいと別れるときも『一緒に帰る』などと言って困らせるのではないか？」と心配するむきもあったのですが、別れぎわには二人とも「バイバイ」と言ってあっけなく別れたのでした。

さて24期の人達への来年の案内です。

ごぞんじのように、開催日時はこれまでその年の担当者がみなさんに事前に希望日を聞いてそれから決めていましたが、来年からお盆あけの土日に固定してしまうことになりましたので、この場を借りて連絡しておきます。来年はおそらく8月24・25日になると思います。場所はまだ未定です。来年もキャンプにしようという意見もありますが、反面で「登れる体力があるうちは山にいきたい」という意見もありますから。

また担当者のほうから連絡がいくと思います。なお、連絡に対してせめて返事だけはお願いします、往復ハガキで連絡しているのですから。

参加者は以下の通りです（50音順・敬称略・年齢は当時）

麻田 正 弘	壮馬（そうま）君（8つ?）
佳津子	拓馬（たくま）君（4つ）
加納 雅 之	佳奈（かな）ちゃん（4つ）
慶 子	理沙（りさ）ちゃん（2つ）
酒井 智 治	瞭（りょう）君（4つ）
黒岩 達夫	坪井 陽典 仲村 正一
樋口 隆樹	（25期）

